



スポーツ・コンプライアンス教育の充実に向けた情報発信企画の第4弾は、野田美智子さんにご登場いただいた。野田さんは熊本県キッズバスケットボール連盟 副会長、熊本県社会人バスケットボールリーグ連盟 副会長などを務め、都道府県バスケットボール協会の法人化や男女共同参画などの改革を中心的に進めてこられた。「当然のこととしてやらなければいけないことがスポーツ界は遅れている」と語る野田さん。その組織の改革を中心にお話をうかがった。

I. 子どもたちに夢を与えられる協会にするために ——組織の改革とその歩み

野田 美智子

熊本県キッズバスケットボール連盟 副会長
熊本県社会人バスケットボールリーグ連盟 副会長
(一社) 熊本県バスケットボール協会 総務委員長
スポーツ・コンプライアンス・オフィサー

一般社団法人

熊本県バスケットボール協会の変化

現在、私は熊本県バスケットボール協会の総務委員長としての理事のほか、熊本県キッズバスケットボール連盟と熊本県の社会人バスケットボール連盟の副会長をさせていただいております。私自身、学生の頃からバスケットボールをしておりました。現在はハウスメーカーの会社の役員のほか、熊本県の男女共同参画の推進員として、スタッフは女性だけという会社で雇用規定など、働く女性のための会社に携わっています。

スポーツ・コンプライアンス・オフィサー (SCO) の講習を受けるなかで、私は男女共同参画の事業に関わっていることもあり、スポーツにおける女性活躍のための環境整備として、スポーツ団体における女性登用の促進に注目しました。

本県の現状を考えると、とても女性の理事が非常に少なく、23人中2人しかいません。これは当協会に

限らず、いろいろなスポーツ協会でも、まだまだ女性の地位が足りてないと感じています。

2015年8月 FIBA (国際バスケットボール連盟) 制裁解除の条件として示された主要改善項目のなかに、国内バスケットボール協会のガバナンス強化があげられ、その1つとして、JBA は都道府県バスケットボール協会の法人化の指示を出しました。

その法人化の移行時も総務委員長だったのですが、事務局と一緒に法人化に向けて尽力をさせていただきました。

都道府県バスケットボール協会の法人化は大変な事業でしたが、今思うと、当時の日本バスケットボール協会 (JBA) の判断は間違っていなかったと思ってま



(写真/ Envato Elements)

す。

まず法人化させることによって、協会の資金の流れがすごく明確になりました。

お金に関してだけでなく、当然のこととしてやらなければいけないことがスポーツ界は遅れているようです。その遅れていることをまず理解させることから始めないと何も始まらない。しかしこれは単年度ではできず何年もかかることでもあります。

今、改革するチャンスだと思っています。事業計画にしても決算するには、一般的な会社は、普通は3月末です。したがって、1～2月にはもう来年度の予算づくりとなります。

しかし、それまでは協会の予算づくりは年度が始まって4～5月だったのですが、決算がバタバタして来年度、再来年度の中・長期計画とか無理がありました。そんな計画では、子どもたちに夢を与えられる仕事が果たしてできるのかと正直思いました。

しかし、今は絶対できないと思ってやってきた予算や決算という年度のことがきちんとできるようになり、今や12月に予算が立てられるようになってきました。さらに1月に事業計画を出して、2月には来年度の予算・決算と事業計画まで出せるようになりました。

コンプライアンスやガバナンスの重要性について、私はSCOの研修や武藤芳照先生（一般社団法人スポーツ・コンプライアンス教育振興機構の代表理事）の講義に参加して、すごく衝撃的な内容で頭をガツンとやられたような体験だったのです。今後はコンプライアンスとガバナンスを推進する準備が必要で、本気で取り組む体制を確立するべきだと思いました。

ガバナンス委員会の設立

今、取りかかっているガバナンスの確立は、まず協会がガバナンス委員会をつくらうとしています。すごく実態とかけ離れてるかもしれませんが、理想型をつくらないと新しい人たちにバトンタッチができないと



(写真/ Envato Elements)

思っています。

私の考える理想というのは現在、女性は23人中2名ですから、女性をまず増やしていきたいと思っています。中長期の課題です。

熊本県バスケットボール協会には各市町村の地域協会があります。この地域協会もJBAが変えていこうかと思ってるところを理想として、そこに近づくことも必要です。

協会の組織として全体のバランスを考えていろいろな職種の人を増やすことも大事だと思います。監査役には公認会計士を、弁護士さんに顧問契約をお願いしたり、組織の変化も必要だと思います。

前回、SCOの研修会にもいろんな協会の人がいらして意見交換をしたのですが、やはり協会内で意見が言えないなどの話を聞きました。どこの組織にもやはり問題があるんだと思いました。そういう問題をどうにか変えようと思っているところもSCOの仲間と話して、大事なことだと感じました。

昨年、JBAからインティグリティ委員会やコンプライアンス委員会をつくるように通達がありました。

JBAは組織としてはきちんと指示はしていると思っています。現場での問題解決に携わることに意味があるからこそ、素晴らしいことだとSCOの講習会で学びました。

年に一度でも武藤先生に話に来てもらって、現場で何か起こったときの実例を伝えていただくことのやり方のほうが真剣にみんなに伝わっていると思っています。大



写真は野田さんより提供。保護者の許可のもと掲載

きなところのゴールラインのところは間違わないように武藤先生にも確認していただきながら伝えるのが一番いいのかなと思ってます。

熊本県のサッカー協会の専務理事もよく知ってる人なのですが、コンプライアンスの重要性は理解しておられるので、今後はサッカー協会の人たちとも共同でスポーツ・コンプライアンスの勉強をする機会をもっていきたいと思っています。

クラブチームで保護者に寄り添う

私が持っているクラブチームでの取り組みですが、今は小学3年生から6年生の男子のチームを1つと2歳から小学校2年生までの男女一緒に行っているキッズの子どもたちのクラブチームを持っています。

スタッフは県内で一番多いかと思いますが12名ぐらいおります。スタッフには指導の協力をお願いして、すべてコーチ資格、審判資格を取得している勉強熱心なスタッフです。

そのクラブチームに来る子どもたちの保護者が練習見学に来ますが、みなさん私の子どもたちと同じぐらいの年齢です。指導自体はスタッフがおりますので、

私が教えることはしません。そこで私のほうは保護者の方のところに行って話をしに行くのです。そこでは家庭内の暴言など、男女共同参画の問題が山ほどあるのです。誰にも言えないといった悩みを聞きながら、子どもたちを応援してくれる保護者の方たちへの応援に心がけています。お父さん、お母さんが元気でないと、子どもも元気になりません。すべての家庭に何らかの問題が大小あるはずだと思って声をかけておくと無駄話のなかにさまざまな問題がみえてきます。子どもの指導はスタッフにまかせて、お父さんとお母さんに何かがあったときに私が力になっていけるのが理想です。

私は株式会社コーチ・エイの認定するビジネスコーチングの資格を持っています。コーチングを学んで18年になります。コーチングの技術はすべてに応用できるのですが、とくにSCOの知識とともにコーチングの技術を持っていないと指導することはできないと思っていました。暴力の問題とか指導者の資質としてコーチングというのをきちんと持っておくことが必要です。私は今、怒りを抑えるための勉強などに興味をもっています。

Ⅱ. スポーツ・コンプライアンス・オフィサーとしての活動

野田さんは、子どもたちのバスケットボール活動にもSCO講習会で学んだことを積極的に活かしている。新規事業にもSCO講習会で学んだスポーツ医学などを取り入れるなど、事業計画にも大きな変化があったと語る野田さん。次の世代につなげるための活動を紹介していただいた。

——SCO講習会を受講して良かったことはどういうことがあげられますか？

たくさんありますね。

熊本県バスケットボール協会の中に医科学委員会があります。その医科学委員会が主になって講習会を開催しています。SCO講習会で学んだことで、増々スポーツ医学の大切さを学びました。今後の取り組みとして医科学委員会を重要視していくべきだと思っています。そして子どもたちに、ケガをしない体操の仕方とか、そういったものを医科学委員会で事業計画に予定しています。それはやはりこのSCO講習会のおかげです。

それからあとはパワハラの問題です。パワハラや暴力はなんとなくみんなが頭に描いているのがあるかと思いますが、やはりコーチングから考えると、パワハラは言葉の使い方だとか、単に怒りでしかないのです。現場にはまだ多々あると感じています。

このSCOの資格を取らせていただいたことで、自分の自覚が大きく変わりました。まだ拡げてゆく方法は確立していない

のですが、今後、スポーツ・コンプライアンスについて学習する人を増やしていきたいと思っています。

——今後どのような活動をしていきたいと思っていますか？

「子どものスポーツ環境整備支援事業実施計画」としてZOOMの勉強会を開催しています。スポーツ庁の後援事業です。小学校の低学年、高学年、指導者とそれぞれが10時間ずつのプログラムです。

これもSCO講習会に参加したことで、刺激を受け、事業内容の立案から実施まで積極的に取り組めるようになりました。

私はよく「壁をぶち破れるでしょ、あなた」と言われます。でもその言葉が嬉しいと思うことがあります。資格というのはアクションを起こさないと死んでしまいます。アクションを起こそうと思ってなかったら資格を取る必要はないのではないかと思います。

こんなに恵まれた環境のなか、実は私の孫もバスケットボールを始めたこともあり、子どもたちが安心



写真は野田さんより提供。保護者の許可のもと掲載

してバスケットボールできるように、いじめだとか、さまざまな問題が起きないようにと思うと、まだまだ私がやれることはたくさんあると感じています。

熊本県キッズバスケットボール連盟には 60 数チームあって、約 600 人所属しています。大会の 1 つとして、通常のルールを変えて行う親子大会というものがあり、5 人のメンバーのうち大人が 1 名、子どもたち 4 名という構成です。チームの大人はシュートしてはいけないという特殊ルールがありますので、子どもたちでよくボールが回るので楽しいゲームです。このルールが一つのきっかけとしてバスケットを始める子どもたちが増えています。

生涯スポーツで考えたとき、経験豊富な指導者がそこでコンプライアンスを学んでいくとますます良くなるし、若い指導者の不足点も補ってくれるようになると思います。

私はこの SCO はすべての年代が勉強すると素晴らしい社会になると思います。



写真は野田さんより提供。保護者の許可のもと掲載

今後の目標としては、私一人では何もできないので、家族を含め、協力してくれるメンバーを活用しながら、小さなことから変えていきたいと思います。

とくに最近の若い指導者のほうが、体罰や暴力やハラスメントの問題にすごく敏感です。彼らは柔軟な対応ができるので、そういう若い人たちの協力者がいると現場が変わると思います。短期・中期・長期の計画を立てて、ガバナンス確立に向けて努力したいと思います。

(取材・構成：編集工房ソシエタス 田口久美子)



野田 美智子 (のだ・みちこ)

1958 年熊本県生まれ。1977 年 3 月熊本女子高等学校（現：慶誠高校）卒業。同年 4 月株式会社肥後銀行入行。おもに営業・融資・得意先と顧客担当に従事。在職中に、秘書検定 1 級、一級金融窓口サービス技能士、サービス接遇インストラクター、熊本県男女共同参画推進員などの資格取得。2013 年 3 月定年にて退職。2016 年 8 月 C. デザイン株式会社設立。専務取締役として、女性 75% 比率の会社として建築業に従事して今に至る。

さらに、コーチングを学び、(財)生涯学習開発財団認定コーチとして 15 年活動。(財)日本バスケットボール協会 C 級コーチを活かして、キッズと U12 男子のバスケットボール教室を運営（在籍約 50 名）。現在、熊本県キッズバスケットボール連盟副会長、熊本県社会人バスケットボールリーグ連盟副会長、(一社)熊本県バスケットボール協会総務委員長。